

2023年度 第1四半期決算

2023年8月3日
住友商事株式会社

将来情報に関するご注意

本資料には、当社の中期経営計画等についての様々な経営目標及びその他の将来予測が開示されています。これらは、当社の経営陣が中期経営計画を成功裡に実践することにより達成することを目指していく目標であります。これらの経営目標及びその他の将来予測は、将来の事象についての現時点における仮定及び予想並びに当社が現時点で入手している情報に基づいているため、今後の四囲の状況等により変化を余儀なくされるものであり、これらの目標や予想の達成及び将来の業績を保証するものではありません。したがって、これらの情報に全面的に依拠されることは控えられ、また、当社がこれらの情報を逐次改訂する義務を負うものではないことをご認識いただくようお願い申し上げます。

1. 2023年度第1四半期決算サマリー

- 2023年度第1四半期の四半期利益（親会社の所有者に帰属）は1,294億円。2023年度通期予想に対する進捗率は27%。
- 2023年度通期予想4,800億円、年間配当金（1株当たり）120円（予定）はいずれも期初公表予想を据え置き。

2023年度第1四半期決算サマリー

	2022年度 第1四半期実績*	2023年度 第1四半期実績	前年同期比	2023年度 通期予想 (23/5公表)	進捗率
当期利益 (親会社の所有者に帰属)	1,553億円	1,294億円	△258億円	4,800億円	27%

年間配当金
(1株当たり)

120円

* IAS第12号「法人所得税」（2021年5月改訂）の適用に伴い、本資料上、2022年度実績は遡及適用後の数値を表示しております。

◆ Sumitomo Corporation | Enriching lives and the world

© 2023 Sumitomo Corporation

1

プレゼンテーション資料に基づき、
2023年度第1四半期決算の概要についてご説明します。

当第1四半期決算のサマリーを記載しています。

当第1四半期の当期利益は1,294億円となりました。

5月に公表しました2023年度通期予想に対する進捗率は27%となりました。

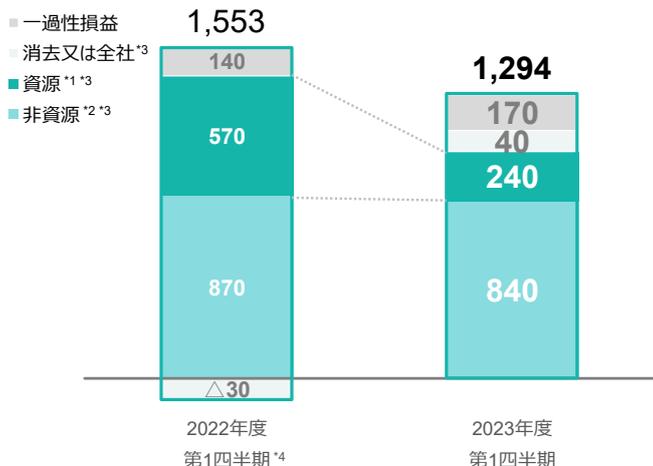
通期予想4,800億円、1株当たり年間配当金120円は
いずれも期初予想を据え置いています。

2. 2023年度第1四半期 実績（四半期利益（親会社の所有者に帰属））

- 当第1四半期の四半期利益（親会社の所有者に帰属）は1,294億円。
- 前年同期比で258億円の減益（△17%）。

（単位：億円）

四半期利益実績（前年同期比）



Sumitomo Corporation | Enriching lives and the world

© 2023 Sumitomo Corporation

ハイライト

- 資源ビジネス（△330億円）
資源・エネルギー価格下落
- 非資源ビジネス（△30億円）
建設機械事業 好調
国内電力小売事業 契約更改による業績回復
不動産事業 前年同期大口案件の引渡しあり
化学品・エレクトロニクスビジネス 市況下落
- 主な一過性損益
当期 米国タイヤ販売事業 直営小売事業売却に伴う一過性利益

（参考）USD期中平均レート：2022年度 第1四半期 129.73
2023年度 第1四半期 137.49

^{*1} 資源ビジネスは「資源第一本部」「資源第二本部」「エネルギー本部」の合計です。

^{*2} 非資源ビジネスは全社計から「資源ビジネス」と「消去又は全社」を差し引いて算出しております。

^{*3} 資源ビジネス、非資源ビジネス、消去又は全社の金額は一過性を除く業績を表示しております。

^{*4} 2023年4月1日付の機構改正に伴い、2022年度第1四半期実績の一過性を除く業績の内訳を組み替えて表示しております。

2

当第1四半期の実績につき改めてご説明します。

当第1四半期の「四半期利益」1,294億円は、前年同期比では258億円の減益となりました。

資料左側の棒グラフは、四半期利益を、「一過性損益」と、一過性を除く業績のうち「資源ビジネス」、「非資源ビジネス」、「消去又は全社」に分けて示しています。

「資源ビジネス」については、240億円となり、330億円の減益となりました。資源・エネルギー価格下落の影響などにより減益となったものです。

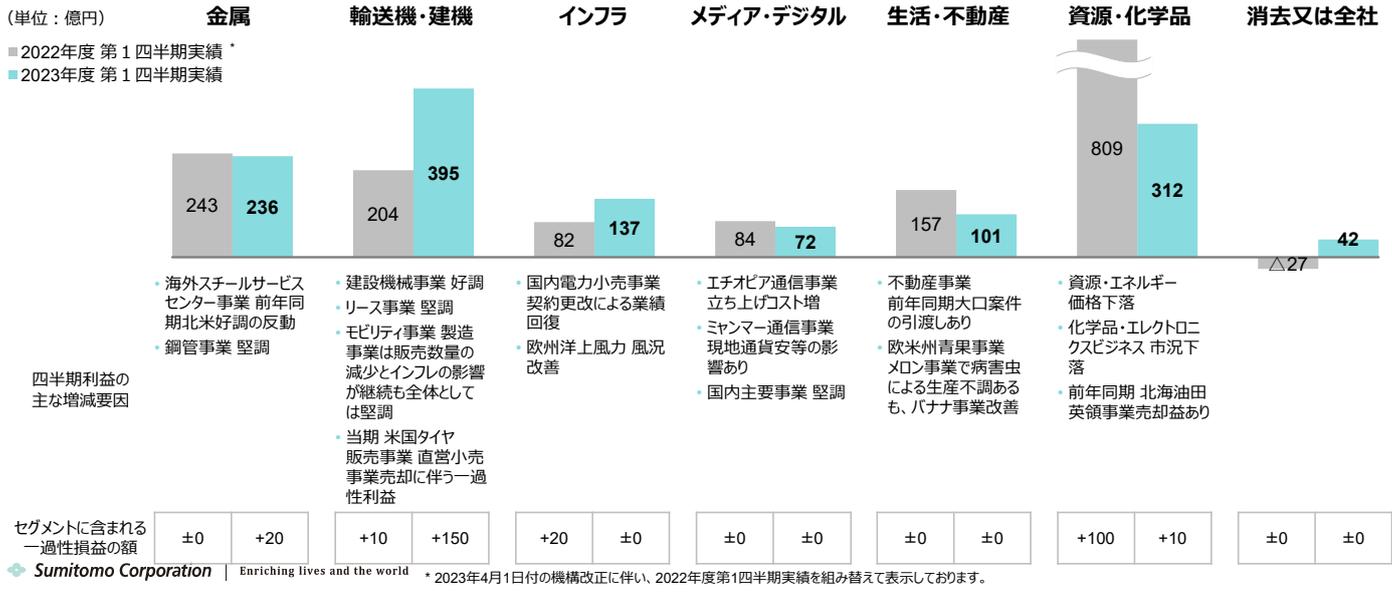
また、「非資源ビジネス」については、840億円となり、30億円の減益となりました。

建設機械事業が好調に推移したほか、国内電力小売事業では契約更改による業績回復が見られるものの、不動産事業や、化学品・エレクトロニクスビジネスでは前年同期と比べ減益となりました。

なお、当第1四半期の「一過性損益」は、米国タイヤ販売事業における小売事業の売却益など合計で170億円の利益を認識しています。

3. 2023年度第1四半期 実績 (セグメント別 四半期利益)

- 前年同期比では「輸送機・建機」、「インフラ」で増益。



セグメントごとの四半期利益の前年同期比増減を示しています。

「金属」は、鋼管事業は堅調に推移しているものの、海外スチールサービスセンター事業で前期に北米事業が好調だった反動の影響などにより前年同期比減益となりました。

「輸送機・建機」は、好調に推移した建設機械事業のほか、リース事業、モビリティ事業も堅調に推移したことに加え、一過性利益もあり、大幅な増益となりました。

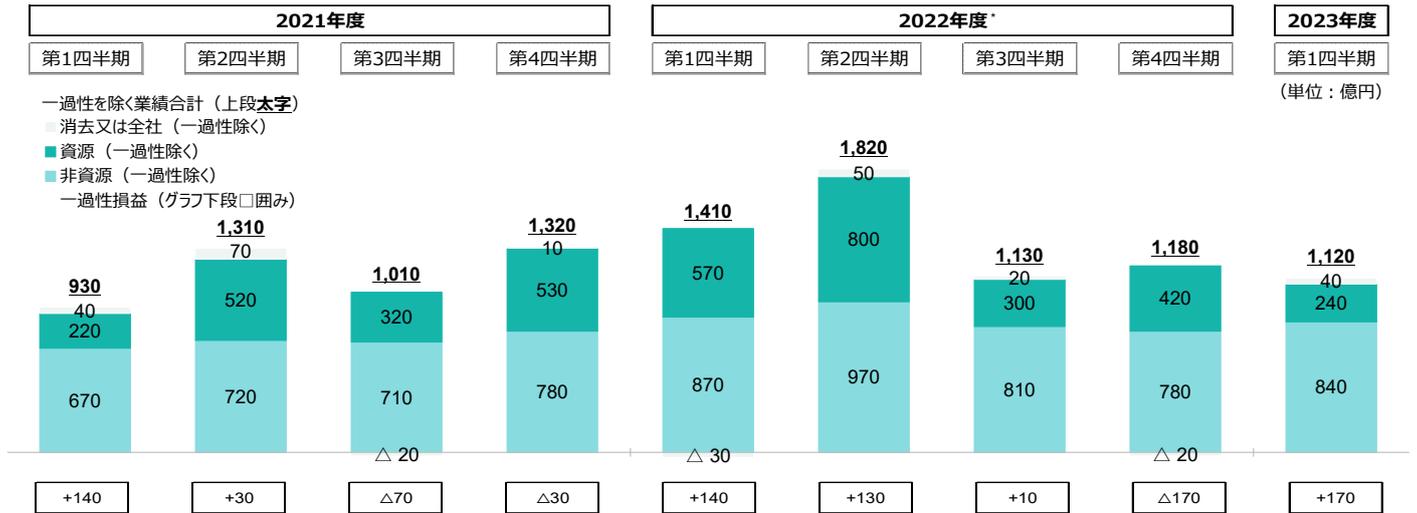
「インフラ」は、国内電力小売事業の回復や、欧州洋上風力の風況改善などにより増益となりました。

「メディア・デジタル」は、エチオピア通信事業における、立ち上げコストの増加などにより、また、「生活・不動産」は、不動産事業において、前年同期に大口案件の引渡しがあった反動などにより、それぞれ減益となりました。

「資源・化学品」は、資源・エネルギー価格や、化学品・エレクトロニクスにおける市況下落の影響などにより減益となりました。

4. 一過性を除く業績 四半期推移

- 資源・エネルギー価格下落の影響があったものの、当第1四半期の一過性を除く業績合計は1,120億円と、2022年度下期と概ね同水準。うち、非資源は840億円と堅調に推移。



* 2023年4月1日付の機構改正に伴い、2022年度の一過性を除く業績の内訳を組み替えて表示しております。

Sumitomo Corporation | Enriching lives and the world

© 2023 Sumitomo Corporation

一過性を除く業績の四半期推移を棒グラフで示しています。

当第1四半期の一過性を除く業績合計は1,120億円と、前年度下期と概ね同水準となりました。非資源については840億円と堅調に推移しています。

5. 2023年度第1四半期 実績（キャッシュ・フロー）

- 株主還元後フリーキャッシュ・フロー（調整後）の2023年度第1四半期実績は289億円のキャッシュ・アウト。
- SHIFT 2023累計実績では754億円のキャッシュ・アウトと現時点ではキャッシュ・アウトが先行も、SHIFT 2023 3年合計では黒字確保を見込む。

(単位：億円)	SHIFT 2023 3年合計計画 (23/5公表)	SHIFT 2023	
		累計実績 (21/4～23/6)	2023年度 第1四半期実績 (23/4～23/6)
基礎収益キャッシュ・フロー ^{*1}	+12,700	+10,192	+1,503 ①
減価償却費 (リース負債による支出Net後)	+3,200	+2,422	+280
資産入替	+6,000	+4,300	+500 ②
その他の資金移動	△5,800	△6,000	△200 ③
投融資 (含む追加・更新投資)	△11,400	△7,800	△1,300 ④
フリーキャッシュ・フロー (調整後²)	+4,700	+3,186	+741
株主還元	△4,700	△3,941	△1,030
株主還元後 フリーキャッシュ・フロー (調整後²)	黒字確保	△754	△289

ハイライト

- 1 基礎収益キャッシュ・フロー**
コアビジネスが着実にキャッシュを創出
- 2 資産入替による回収**
米国タイヤ販売事業 直営小売事業売却に伴う
資金回収 等
- 3 その他の資金移動**
運転資金の増加 等
- 4 投融資実行**
米国硫酸事業の買収
国内外不動産案件の取得 等

次に、キャッシュ・フローについてご説明します。

リース負債による支出調整後の株主還元後フリーキャッシュ・フローの当第1四半期実績は289億円のキャッシュ・アウトとなりました。

主な内訳ですが、「基礎収益キャッシュ・フロー」は、コアビジネスが着実にキャッシュを創出したことなどにより、1,503億円のキャッシュ・インとなりました。

また、「資産入替」では、米国タイヤ販売事業における小売事業の売却に伴う資金回収などにより、500億円のキャッシュを回収しています。

「投融資」は、米国硫酸事業の買収や、国内外の不動産案件の取得を実行したことなどにより、1,300億円のキャッシュ・アウトとなりました。

6. 2023年度第1四半期 実績（財政状態）

- 円安の影響等により、総資産は10.6兆円に増加（前期末比約+4,900億円）。

（単位：億円）

	2022年度末	2023年度 第1四半期末	増減
流動資産	48,730	50,448	+1,718
非流動資産	52,324	55,517	+3,193
資産合計	101,054	105,965	+4,911
その他負債	29,767	29,817	+50
有利子負債 ^{*1} （現預金Net後）	31,521 (24,844)	33,317 (26,103)	+1,796 (+1,258)
負債合計	61,288	63,134	+1,846
株主資本 ^{*2}	37,787	40,797	+3,010
負債及び資本合計	101,054	105,965	+4,911
D/E Ratio (Net)	0.7	0.6	△0.1pt
為替 (円/US\$)	133.53	144.99	+11.46

*1 有利子負債…社債及び借入金(流動・非流動)の合計（リース負債は含まず）

*2 株主資本…資本の内、「親会社の所有者に帰属する持分合計」

◆ Sumitomo Corporation | Enriching lives and the world

© 2023 Sumitomo Corporation

ハイライト

総資産 +4,911 (105,965←101,054)

- 円安の影響による増加（約+4,000億円）

株主資本 +3,010 (40,797←37,787)

- 円安の影響による増加（約+2,300億円）
- 当期利益の計上
- 配当金の支払・自己株式の取得

続いて、財政状態についてご説明します。

総資産は、前期末と比べ、約4,900億円増加し、10兆6,000億円となりました。
これは、主に円安の影響で約4,000億円増加したことなどによるものです。

また、株主資本は、当期利益の計上に加え、為替の影響により、
前期末と比べ、約2,300億円増加したことなどにより、4兆800億円となりました。

Net DERについては、0.6倍となりました。

7. 2023年度 通期見通し（セグメント別）

- 各国の金融政策、中国経済の回復度合い、資源・エネルギー価格の推移等の影響に注視が必要なが、第2四半期以降も全体としては期初想定通りの業績推移を見込む。

(単位：億円)	2023年度 通期予想 (23/5公表)	2023年度 第1四半期実績	進捗率	主要事業の第2四半期以降の見通し
金属	910	236	26%	北米鋼管事業で第2四半期まで在庫調整の影響あるも、下期の市況回復を見込む。
輸送機・建機	930	395	42%	一過性利益により高進捗。全体としては堅調に推移。
インフラ	430	137	32%	為替影響等により高進捗。全体としては堅調に推移。
メディア・デジタル	360	72	20%	国内主要事業会社は下期偏重計画でもあり、堅調に推移。
生活・不動産	520	101	19%	不動産事業で計画通りの案件引渡しを見込む。
資源・化学品	1,570	312	20%	第2・4四半期に南アフリカ鉄鉱石事業の持分利益計上あり。 アグリ事業で需要期における販売増、基礎化学品ビジネスで下期の市況回復・販売増を見込む。
消去又は全社	80	42	53%	
全社合計	4,800	1,294	27%	
うち、一過性損益	200	170	-	
うち、一過性を除く業績	4,600	1,120	24%	

最後に通期見通しについてご説明します。

冒頭でご説明の通り、今回は5月に公表した通期業績予想を据え置いています。

業績予想の前提となる事業環境については、現時点では期初想定から大きな変化は無く、また、第1四半期の当社業績も、全社合計で27%の進捗率で推移しています。

一部進捗率が低いセグメントもありますが、「メディア・デジタル」は下期偏重の計画であることや、「生活・不動産」でも第2四半期以降に不動産事業で計画通りの案件引渡しを見込んでいること、「資源・化学品」で、第2・第4四半期に南アフリカ鉄鉱石事業の持分利益を取り込むことなども踏まえると、第1四半期は通期予想に対して極めて順調なスタートになったと考えています。

最後に、今年度は中期経営計画SHIFT 2023の最終年度です。SHIFT 2023の最大の目的である「高い収益性と下方耐性の強い事業ポートフォリオへのシフト」を実現することで、来年度から始まる次期中計における更なる成長に繋げていきたいと考えています。

以上